札幌医科大学附属病院麻酔科研修プログラム

2027 年度開始　麻酔科専門研修プログラム

専門研修基幹施設：札幌医科大学附属病院

専門研修連携施設数：25 施設

札幌医科大学麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前から術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 札幌医科大学麻酔科専門研修プログラムの概要と特徴

基幹施設である札幌医科大学附属病院，研修連携施設である北海道内27病院において，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する．

本研修プログラムでは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに記されている．

3. 札幌医科大学麻酔科専門研修プログラムの運営方針

- 研修の4年間のうち少なくとも6ヶ月～1年間は，専門研修基幹施設で研修を行う．
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する．
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが，小児診療を中心に学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例B），救急集中治療を学びたい者へのローテーション（ローテーション例C），連携プログラムで集中治療を学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）など，専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する．

札幌医科大学麻酔科専門研修プログラム

研修実施計画例

	A（標準）	B（小児）	D（救急集中治療）	D（連携プログラム）
初年度前期	札幌医大附属病院	札幌医大附属病院	札幌医大附属病院	札幌医大附属病院
初年度後期	札幌医大附属病院	札幌医大附属病院	旭川市立病院	札幌医大附属病院
２年度前期	JR札幌病院	市立旭川病院	旭川市立病院	弘前大学病院
２年度後期	JR札幌病院	市立旭川病院	北見赤十字病院	弘前大学病院
３年度前期	旭川赤十字病院 （救急集中治療）	北海道立子ども総合 医療・療育センター	北見赤十字病院 （救急集中治療）	福島県立医科大学病院 （救急集中治療）
３年度後期	旭川赤十字病院 （救急集中治療）	北海道立子ども総合 医療・療育センター	札幌医大附属病院 （集中治療）	福島県立医科大学病院 （救急集中治療）
４年度前期	札幌東徳洲会病院 （心臓血管麻酔）	市立釧路総合病院 （救急集中治療）	札幌医大附属病院 （集中治療）	札幌医大附属病院 （集中治療）
４年度後期	札幌東徳洲会病院 （心臓血管麻酔）	市立釧路総合病院 （救急集中治療）	札幌医大附属病院 （手術室）	札幌医大附属病院 （集中治療）

週間予定表

札幌医大附属病院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	術後診察	休み
午後	手術室	術前外来	手術室	手術室	手術室	休み	休み
当直			当直				



札幌医科大学麻酔科学講座のロゴの青と緑は、北海道の豊かな自然を表しています.

北の大地で一緒に真のプロフェッショナルを目指しましょう！

4. 札幌医科大学麻酔科専門研修プログラム修了後のキャリアアップ

麻酔科専門医取得は麻酔科医としてのキャリアのスタートであってゴールではない．札幌医科大学麻酔科専門研修プログラムは，専攻医のキャリアプランにあわせた研修ローテーションを提供している．**札幌医科大学麻酔科専門研修プログラムでは麻酔科専門医取得と前後して，麻酔科周辺領域の各種資格を取得することが可能**である．

① 心臓血管麻酔専門医

枝長充隆，大野翔，川口亮一，佐藤智恵，前田真岐志，吉川裕介，高橋可南子，平畑知輝

② JB-POT 認定試験合格者

東口隆，飯野達也，池島まりこ，池島雄太，石岡慶己，枝長充隆，大野翔，岡田麻里絵，川岸俊也，君塚基修，熊谷友絵，汲田翔，齋藤光汰，佐藤慧，佐藤順一，佐藤智恵，佐藤優真，杉本美幸，重元　守，鈴木信太郎，大須田倫子，高橋可南子，田中聡一，丹保　彩，飛世史則，新田麻子，平畑知輝，前田真岐志，山中美帆，吉川裕介

③ J-RACE（日本区域麻酔学会検定試験）合格者

石岡慶己，伊原彩希，鎌田康宏，川岸俊也，佐藤帆奈美，澤田敦史，高桑一登，高田幸昌，高橋可南子，辻　成人，豊原つばさ，新田麻子，濱田耕介，平畑知輝，水口はるか，前田真岐志

④ 日本小児麻酔学会認定医

枝長充隆，大野翔，佐藤慧，佐藤智恵，高橋可南子，茶木友浩，名和由布子，宮下龍，吉川裕介

⑤ 日本救急医学会専門医

荒川穣二，一宮尚裕，小出明知，佐々川飛鳥，佐藤智洋，七戸康夫，清水斎，其田一，豊原つばさ，南波仁，本間広則，御村光子，山本修司

⑥ 日本集中治療学会専門医

赤塚正幸，荒川穣二，大槻郁人，数馬聡，川口亮一，菊池謙一郎，木村慶信，黒田浩光，佐々川飛鳥，佐々木英昭，佐藤慧，佐藤智洋，七戸康夫，清水斎，辻口直紀，飛世史則，並木正伸，名和由布子，西川幸喜，本間広則，山本修司

⑦ 日本ペインクリニック学会専門医

石岡慶己，一宮尚裕，伊藤徹雄，太田孝一，木村さおり，久米田幸弘，佐々木英昭，佐藤紀，澤田敦史，清水斎，杉目史行，関根利佳，橘信子，田中悟，鳥谷部政樹，中山禎人，並木正伸，硲光司，半澤辰夫，御村光子，山蔭道明，山崎裕，山澤弦，渡邊昭彦，渡辺政徳

5. 札幌医科大学麻酔科専門研修プログラムにおける研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

札幌医科大学附属病院（麻酔認定病院番号 5）

研修プログラム統括責任者：山蔭道明

専門研修指導医　（17名）	
山蔭道明　（麻酔，ペインクリニック）	数馬　聡　（集中治療）
枝長充隆　（麻酔，心臓血管麻酔）	立花俊祐　（麻酔）
岩崎創史　（緩和医療）	佐藤智恵　（麻酔）
早水憲吾　（麻酔）	赤塚正幸　（集中治療）
杉山由紀　（麻酔，集中治療）	木井菜摘　（麻酔，産科麻酔）
澤田敦史　（麻酔，ペインクリニック，区域麻酔）	池島雄太　（麻酔，小児麻酔）
吉川裕介　（麻酔，心臓血管麻酔）	新田麻子　（麻酔，区域麻酔）
君塚基修　（麻酔，産科麻酔）	池島まりこ　（麻酔，産科麻酔）
茶木友浩　（麻酔，小児麻酔）	

麻酔管理症例数：6788 症例

施設の特徴：札幌医科大学附属病院では年間 6000 件以上の手術症例を行っており，ロボット手術をはじめとした先端医療に対応しています．麻酔科専門医以外に，心臓麻酔，小児麻酔，産科麻酔，神経ブロック，ペインクリニックなどの資格を取得した多くの麻酔科医が在籍しており，専門性の高い指導を受けることができます．

札幌医科大学麻酔科専門研修プログラム

1 市立釧路総合病院（麻酔認定病院番号 95）

研修実施責任者：寺田拡文

専門研修指導医（3名）
其田　一（麻酔）　寺田拡文（麻酔，救急集中治療）　若杉佳子（麻酔）

麻酔科管理症例数：3005 症例

施設の特徴：市立釧路総合病院は釧路・根室地域随一の急性期基幹病院であり救命救急センターをはじめ，がん拠点病院，エイズ拠点病院，災害拠点病院等の指定を受けており，地域医療の要となっています．その中で麻酔科は手術麻酔，ER，ICUで救急集中医療を担当し，臨床研修医の救急部門の研修も担当しています．

2 小樽市立病院（麻酔認定病院番号 1811）

研修実施責任者：中林賢一

専門研修指導医（6名）
中林賢一（麻酔）　川口亮一（麻酔，心臓麻酔，集中治療）　大槻郁人（麻酔，集中治療）　水口はるか（麻酔）　田中亮圭（麻酔）

麻酔科管理症例数：2388 症例

施設の特徴：市立小樽病院の麻酔科では，以下の3つの診療を中心に行っています．①すべての手術や麻酔が安全に遂行できるように，術前から術後まで麻酔科医が積極的に関与して周術期管理を行っています．②小樽市内では唯一の集中治療室を有し，麻酔科医が中心となって重症救急疾患の対応にあたっています．③痛みの外来（ペインクリニック）を開設し帯状疱疹や腰下肢痛など様々な痛みの治療を行っています．また癌の痛みに対しても積極的に取り組んでいます．

3 JR 札幌病院（麻酔認定病院番号 171）

研修実施責任者：村上真一

専門研修指導医（4名）
村上真一（麻酔，集中治療）　木村慶信（麻酔，集中治療）　高田結理（麻酔）　清水斎（麻酔，集中治療）

麻酔科管理症例数：1745 症例

施設の特徴：JR札幌病院は札幌市の中心，札幌駅から徒歩10分に位置し，近隣には，大通公園，時計台，すすきのなどの観光名所があります．病院の歴史は古く，1915年札幌鉄道病院として開設され，以来90年にわたり当地での医療を担っています．

4 旭川赤十字病院（麻酔認定病院番号 176）

研修実施責任者：四十物摩呼

専門研修指導医（4名）
小林巌（救急集中治療）　四十物摩呼（麻酔）　飛世史則（麻酔，救急集中治療）　大沼幸代（麻酔）

麻酔科管理症例数：3466 症例

施設の特徴：旭川赤十字病院では，手術内外における周術期管理の他，救命救急センターにおける救急医療，ドクターヘリ，集中治療業務を麻酔科医が担当し，道北地区の救急医療を担っています．

5 市立旭川病院（麻酔認定病院番号 272）

研修実施責任者：南波仁

専門研修指導医（3名）
一宮尚裕（麻酔，救急集中治療，ペインクリニック）　南波仁（麻酔，救急集中治療）　丹保彩（麻酔）

麻酔科管理症例数：2145 症例

施設の特徴：救急治療認定病院，集中治療認定病院，ペインクリニック認定病院．循環器疾患がメインの病院．

6 岩見沢市立総合病院（麻酔認定病院番号 144）

研修実施責任者：伊藤徹雄

専門研修指導医（2名）
伊藤徹雄（麻酔）　伊原彩希（麻酔）

麻酔科管理症例数：1197 症例

施設の特徴：常勤麻酔科医3名で手術麻酔が中心です．麻酔科依頼の手術は，外科・整形外科・産婦人科・泌尿器科・脳神経外科・眼科より受けています．手術室は6室で年間1000例近くの手術に携わっています．外来では手術を受ける方の術前診察を主に行っています．その他、帯状疱疹後神経痛の患者さんも診察しています．

7 江別市立病院（麻酔認定病院番号 410）

研修実施責任者：川岸俊也

専門研修指導医（3名）
川岸俊也（麻酔）　中郷あゆみ（麻酔，産科麻酔）　長井洋（麻酔）

麻酔科管理症例数：1346 症例

施設の特徴：札幌市に近い．麻酔業務とペインクリニック業務を分離しています．江別市内では唯一，緊急帝王切開術をおこなっています．また，無痛分娩にも対応しております．ペインクリニック部門では線維筋痛症などの難治性慢性疼痛患者の治療もおこなっています．病院の特徴としては総合内科が充実しており，全道各地の病院から見学や研修医が集まっています．

8 札幌東徳洲会病院（麻酔認定病院番号 741）

研修実施責任者：鳥谷部政樹

専門研修指導医（6名）
鳥谷部政樹（麻酔）　須佐泰之（麻酔，ペインクリニック）　小松徹（麻酔）　土屋滋雄（麻酔）　児玉　萌（麻酔）　福田玲緒奈（麻酔）

麻酔科管理症例数：3245 症例

施設の特徴：心臓血管手術症例，緊急手術症例が多いのが特徴です．東徳洲会病院で初期研修を行った医師が，数多く札幌医大麻酔科で後期研修を継続し専門医を取得しています．

9 NTT 東日本札幌病院（麻酔認定病院番号 844）

研修実施責任者：佐藤順一

専門研修指導医（5名）
御村光子（麻酔，ペインクリニック）　佐藤順一（麻酔，ペインクリニック）　佐々木英昭（麻酔，ペインクリニック）　高田幸昌（麻酔，ペインクリニック）　大須田倫子（麻酔，ペインクリニック）

麻酔科管理症例数：2620 症例

施設の特徴：北海道ではトップクラスの 症例数を誇る,ペインクリニック認定施設です．

10 中村記念病院（麻酔認定病院番号 1485）

研修実施責任者：杉目史行

専門研修指導医（3名）
杉目史行（麻酔）　松岡伸悦（麻酔）　大森恵（麻酔）

麻酔科管理症例数：827 症例

施設の特徴：中村記念病院は24 時間救急医療体制を堅持しており，札幌市の一次・二次救急指定病院として市内はもとより近隣市町村からの救急医療に貢献しています．当院の特色は，病院全体が脳神経疾患に特化していることです．脳血管障害（クモ膜下出血，脳内出血，脳梗塞），脳腫瘍，頭部外傷，脊髄・脊椎疾患，てんかん，パーキンソン病，痴呆，末梢神経疾患などそれぞれの分野のエキスパートが対応しています．照射などの物理療法も行っています．

11 滝川市立病院（麻酔認定病院番号 414）

研修実施責任者：井上光

専門研修指導医（2名）
井上光（麻酔，ペインクリニック）　石岡慶己（麻酔，ペインクリニック）

麻酔科管理症例数：826 症例

施設の特徴：手術麻酔・救急外来・ICU・ペイン外来とすべての分野を麻酔科全員で担当しています．医局は総合医局で他科の医師とのコミュニケーションも取りやすく明るい雰囲気です．

12 帯広協会病院（麻酔認定病院番号 892）

研修実施責任者：田中清高

専門研修指導医（2名）
大沼　淳（麻酔）　田中清高（麻酔）

麻酔科管理症例数：1914 症例

施設の特徴：当院はベッド数360床，診療科数15，医師数41名の二次救急担当病院です．臨床麻酔を中心にペインクリニック，緩和医療を担っております．麻酔科担当手術件数は約2000件で，そのうち500件が臨時手術です．当院では外科・産婦人科・整形外科・泌尿器科・眼科・形成外科・脳神経外科・耳鼻咽喉科の0歳～100歳超の患者さんの手術を経験することができます．救急医療は病院全体で分担しているため，麻酔科は麻酔業務のみに専念しています．

13 北海道子ども総合医療・療育センター（麻酔認定病院番号 173）

研修実施責任者：名和由布子

専門研修指導医（2名）
名和由布子（小児麻酔，救急集中治療）　玉城敬史（小児麻酔）

麻酔科管理症例数：1017 症例

施設の特徴：北海道で唯一の小児専門病院です．

14 帯広厚生病院（麻酔認定病院番号 224）

研修実施責任者：宮下龍

専門研修指導医（4名）
宮下　龍（麻酔，救急集中治療）　岡田麻里絵（麻酔，救急集中治療）　菊地智春（麻酔）　内海里花（麻酔）

麻酔科管理症例数：3640 症例

施設の特徴：帯広厚生病院はベッド数748床，診療科数20，医師数141名の地域中核病院です．十勝地域唯一の救

命救急センターが併設されており，地域救急医療においても中心的な役割を担っています．

15 市立函館病院（麻酔認定病院番号 74）

研修実施責任者：辻口直紀

専門研修指導医（3名）
辻口直紀（麻酔）　熱田真穂（麻酔）　西原 教晃 （麻酔）

麻酔科管理症例数：2242 症例

施設の特徴：市立函館病院は万延元年（1860年）「箱館医学所」として創立し，北海道初の官立病院として発足以来，今年（2020年）で160年になります．麻酔科は道南地区の急性期医療を担っています．

16 王子総合病院（麻酔認定病院番号 663）

研修実施責任者：渡辺政徳

専門研修指導医（3名）
田中悟（麻酔）　渡辺政徳（麻酔，ペインクリニック）　根符勇二（麻酔）

麻酔科管理症例数：2663 症例

施設の特徴：麻酔科は現在5名体制であり，手術麻酔を中心にペインクリニック，救急・心肺蘇生，ICU管理，災害対応と業務は多岐に渡っています．心臓血管麻酔は約150例あり開心術の麻酔研修や経食道心エコーの習得には事欠きません．

17 製鉄記念室蘭病院（麻酔認定病院番号 586）

研修実施責任者：西川幸喜

専門研修指導医（3名）
西川幸喜（麻酔）　伊藤知哉（麻酔）　金高弘典（麻酔）

麻酔科管理症例数：2390 症例

18 苫小牧市立病院（麻酔認定病院番号 1687）

研修実施責任者：卯月みつる

専門研修指導医（2名）
卯月みつる（麻酔）　伊野亜佑美（麻酔）

麻酔科管理症例数：1551 症例

施設の特徴:常勤医3名が専従として麻酔業務を担当しています．手術前の不安の軽減や手術中の管理のみならず，

手術後の疼痛や悪心嘔吐を軽減するべく，積極的に病棟回診やPCAを行い，執刀医や看護師と連携をとりながら「周術期管理」という概念で手術を受ける患者さんと接しています.

19 羊ケ丘病院（麻酔認定病院番号 1526）

研修実施責任者：中山雅康

専門研修指導医（3名）
中山雅康（麻酔）　折茂香織（麻酔）　杉本美幸（麻酔）

麻酔科管理症例数：1924 症例

施設の特徴：羊ヶ丘病院は整形外科の専門病院で，各部位ごとにエキスパートによる質の高い医療を提供しています．年間2000件を超える手術に対して，麻酔も高い安全性と質の維持を目指しおり，患者様が手術中や手術後を快適に送っていただけるように努めております.

20 日鋼記念病院（麻酔認定病院番号 239）

研修実施責任者：鎌田康宏

専門研修指導医（1名）
鎌田康宏（麻酔，ペインクリニック）

麻酔科管理症例数：1254 症例

施設の特徴：北海道の広大な医療圏の一つの西胆振地域にある日鋼記念病院は，高度専門医療の提供と地域医療機関との連携による質の高い医療環境づくりを目指して日々取り組んでおります.

21 市立千歳市民病院（麻酔認定病院番号 1832）

研修実施責任者：塚窪俊裕

専門研修指導医（1名）
塚窪俊裕（麻酔）

麻酔科管理症例数：1216 症例

施設の特徴：北海道の空の玄関口である千歳市民病院は，より質の高い心温まる医療の実現を目指しています．地域の急性期病院として中核を担っています.

22 北見赤十字病院（麻酔認定病院番号 362）

研修実施責任者：荒川譲二

専門研修指導医（3名）

荒川譲二（麻酔）　表雅仁（麻酔）　垣本和人（麻酔）

麻酔科管理症例数：3907 症例

施設の特徴：当院はオホーツク地域の基幹病院として，地方センター病院，救命救急センター等の役割を担っている急性期病院です．「人道・博愛に基づき，患者様を尊重した医療を提供し，地域の期待と信頼に応えます．」の理念のもと，職員が一丸となってオホーツク地域の医療を支えています．

23 札幌南三条病院（麻酔認定病院番号 1141）

研修実施責任者：中山禎人

専門研修指導医（1名）
中山禎人（麻酔）

麻酔科管理症例数：331 症例

施設の特徴：札幌南三条病院麻酔科では，肺や胸部の手術で必要になる「分離肺換気」という難しい手技を伴う全身麻酔を年間400例近く行っています．肺がん手術の症例数は道内１位，全国でも20位以内ですので肺手術の麻酔管理についてはエキスパートの養成が可能と思います．

24 北海道循環器病院（麻酔認定病院番号 1939）

研修実施責任者：前田真岐志

専門研修指導医（1名）
大野翔（麻酔，心臓血管麻酔）

麻酔科管理症例数：232 症例

25 道立北見病院（麻酔認定病院番号 1795）

研修実施責任者：吉田奈央

専門研修指導医（1名）
吉田奈央（麻酔）

麻酔科管理症例数：327 症例

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

（プログラム責任者） 札幌医科大学医学部麻酔科学講座 教授 山蔭道明

（問い合わせ先）〒060-8543 札幌市中央区南１条西16丁目札幌医科大学医学部麻酔科学講座

研修プログラム担当 澤田敦史（E-mail：atusihon7@gmail.com）

（電話）011-611-2111 (内線 3568)

Website http://web.sapmed.ac.jp/masui/

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

8. 専門研修方法

別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた臨床現場での学習，臨床現場を離れた学習，自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA 1 ～ 2 度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA 3 度の患者の周術期管理や ASA 1 ～ 2 度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修 3 年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的に問題のない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録 : 専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック : 研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社

会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

13. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要

がある. 麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める.

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院として多くの連携施設が入っている。

- 道央エリア：江別市立病院、えにわ病院、千歳市民病院、岩見沢市立病院、滝川市立病院、深川市立病院、日鋼記念病院、市立室蘭病院王子総合病院、苫小牧市立病院、小樽市立病院、倶知安厚生病院
- 道南エリア：市立函館病院
- 道北エリア：旭川赤十字病院、市立旭川病院
- 道東エリア：北見赤十字病院、帯広厚生病院、帯広協会病院、市立釧路総合病院

医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する.

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する.

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する.